

自己点検・評価報告書

国際ことば学院日本語学校

点検・評価項目	
1.理念・教育目標	評価
1.1 教育理念 「世界中の多様な人間同士が学びあい、支えあう場を創造する。」	
1.2 教育目標 Ⅰ. 【授業活動の方針】 生徒が様々な人と触れ合いながら、学ぶ喜びを感じる場にあること Ⅱ. 【学校内の人間関係づくり】 学校全体が信頼しあう場になっていること Ⅲ. 【地域とのつながり】 生徒が幸福な社会づくりに貢献する学校であること	
1.3 学習到達目標 ・自分の将来を自ら決定し、継続的に学ぶ力を身につけることができる。 ・自分に関心のある幅広い分野について要点を汲んだり、熟達した日本語話者となめらかなやりとりができる。 ・多様な方略を駆使しながら社会言語的な適切性を意識しその場にふさわしいコミュニケーションをとり、積極的に社会とのつながりをもつことができる。	
まとめ	
留学生の属性や志望動機、学習状況は年々変化しているが、教務・事務職員が連携し、社会情勢や学生の特性に応じた運営上の工夫を行っている。学校全体として変化に前向きに対応する体制が維持されている。また、教職員も異動による配置換えや新規の採用もあり、本校の設置の背景、理念や教育目標、到達目標をことあるごとに確認する機会を充実させることが必要と感じている。	
2. 日本語教育機関の運営	
2.1 日本語教育機関の告示基準に適合していることを年 1回以上確認している。	A
2.2 運営の透明性が確保されている。	C
2.3 運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。	C
2.4 運営にあたり法令を遵守している。	A
*達成状況・課題・改善計画 日本語教育機関の告示基準など運営関係の法律については遵守が徹底され適合状況を点検している。また関連制度の変更についても最新の情報が校内で共有されている状況にあるといえる。運営に関する情報は整理・保管され、法人内で円滑に共有される体制がある程度整備されているが、一部の項目では課題が放置されたままになったり、重要事項に関する意思決定までの課程が法人全体の組織のうちの一部として計画的に行われず運用がルーズになっている面があり、課題が残る。	

3.情報公開	
3.1 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。	A
3.2 募集及び納付金に関する情報を公開している。	A
3.3 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。	B
3.4 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている	A
3.5 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。	A
<p>*達成状況・課題・改善計画</p> <p>当校の基本情報についてはホームページ上で適切に公開しており、定期的に更新を行っている。募集要項および納付金に関する情報についても概ね公開している。入学希望者に対する多言語での情報提供については、主要国出身の職員を配置し、母語により説明している一方で、多言語での情報提供は一部に留まっており、現地の紹介機関に依存している部分もあることから、幅広い情報発信ができるようにするためにWebを活用したり募集に関する対応の体制の強化が課題である。</p>	
4.入学者の募集と選考	
4.1 適切な方法で入学者の募集を行っている。	A
4.2 適切な方法で入学者の選考が行われている。	A
<p>*達成状況・課題・改善計画</p> <p>海外の紹介機関と定期的に連絡を取り合い、募集要項や入学条件を明確にした上で適切な募集活動を行っている。選考にあたっては、最終学歴や成績、志望理由、経費支弁能力等の書類審査を行い、現地提携機関と連携し、入学希望者の学習意欲や日本語能力についてオンライン面接等を実施し、総合的に判断した上で適切に入学者の選考を行っている。また、当校の校長および教職員が海外に出向き、説明会の実施や入学希望者との面接を実施している。現状については運営上問題がないが、一方で選考の一部を現地機関に偏重気味のきらいがあり、いくつかの課題をもたらす懸念が生じる。1つめに本校の教育課程の内容や到達目標が真に入学を希望する者に理解されているのか真に確認する方法がとれていないのではないかという懸念と、2つめに本校が主体となって選考基準や方法を調整したり、各国の教育事情について研究する姿勢が不足しがちであるという点である。募集体制については26年度の本校の事業活動の大きな目標の一つであり、世界情勢や各国の教育体制などを見据えたうえで計画的、戦略的に研究調査にあてて、将来的な募集活動につなげるためのとりくみの予算を26年度に計上している。</p>	
5.教育活動	
5.1 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。	B
5.2 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。	B
5.3 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。	B
<p>*達成状況・課題・改善計画</p> <p>教育活動の「DXの推進」や「『日本語教育の参照枠』の活用」といった整備にむけた体制はあるが、事務職員や非常勤教員を含めた学校全体としての教育的な取組についての当事者意識は個人の専門性向上の意識や経験によって差異があり、個人差をどのように扱うかが課題となっている。また、教育理念や学習者の日常の行動を元に具体的に日々の授業活動に落とし込むかといった教育方法についても教職員間での意識の差が認められる。</p> <p>教育評価においては、その基準の周知方法と客観的な検証サイクルについては一部徹底されていない部分が見受けられる。</p> <p>本年度からは教職員での話し合いや研修の機会は前年度比で3倍に増やす計画がありその成果が期待される場所である。</p>	

6.教職員育成	
6.1 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。	B
6.2 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。	B
*達成状況・課題・改善計画 教職員の自己評価は実施されており、一定の評価体制は整備されているものの、相互評価といった評価の多方向性については今後の課題であり、実施に向けた検討と体制づくりを進めていく。 教育のための研修や着任時点の効果的な研修の内容と実施方法については前年度から検討や試行が開始され整備されはじめています。また現職教員の授業のふりかえりや教員間での実践の共有と各自の目標設定について継続的に記録され、研修担当者や主任等から助言が行えるような体制を整えている。	
7. 学生支援	
7.1 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。	A
7.2 進路指導を適切に行っている。	A
7.3 安全な留学生生活を送るための適切な取組をしている。	A
7.4 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。	A
*達成状況・課題・改善計画 入国前後に、速やかにオリエンテーションを実施し、日本の入管法や道路交通法といった留学生の生活を想定した事項について確認を行っている。特に交通安全や防災、防犯、地域住民との関わりに関する注意事項については重点的に取り上げ、授業時間やメッセージツールを通じて全学生に周知することとしている。 留学生の進路については、進路担当者が校務分掌として特定され組織的に運用がなされている。定期的な進路希望調査を行い進路希望を把握したり、必要な情報提供をしている。また、自身のキャリア形成に資する教材の作成、運用、願書指導、面接練習なども授業活動の中で行っている。	
8. 施設・設備	
8.1 語学学習に適した施設・設備である。	B
8.2 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対応を行っている。	A
*達成状況・課題・改善計画 語学学習に適した施設・設備は整備されているが、やや手狭な面も見られる。学生が安心して過ごせるよう、くつろげるスペースの確保が課題となっている。 安全面については、防災訓練等を通じて適切な対応がなされている。	
9. 地域貢献・社会貢献	
9.1 地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。	A
*達成状況・課題・改善計画 地域の防災訓練や行事への参加、大学からの実習生受け入れ、看護専門学校との共同授業といった多角的な外部連携を展開しており、地域社会に貢献する教育機関として評価され信頼関係を築いていると言える。昨年度は地域交流イベントでの出展などを通じ地域住民に多文化理解への関心をひろめる活動を独自で行った。今後はこの良好な関係をさらに一歩進め、学校が中心となり地域社会との主体的かつ創造的な交流の場、機会を増やす方針である。一部のクラスでの先行事例としては、十分に成功していると言えるが一部のクラスだけではなく、学校全体として関心を持つ留学生には関わられるような体制を創出する。	
10. 財務	
10.1 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。	A
*達成状況・課題・改善計画 学校法人である当校は、財務状況は中長期的に安定している。予算、収支計画について、学校法人本部において審議され承認を受けており、有効性及び妥当性は保たれている。決算については、適正な会計処理を行い、公認会計士による会計審査を受け、学校法人の理事会において監査報告をし、承認を受けている。	
評価方法 ・A：「達成している」あるいは「適合している」項目。 ・B：「一部達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。 ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。	

総合評価

近年の日本語教育機関を取り巻く制度の枠組みの変更や、あらたな制度の開始にともない、とりわけその情報の収集や体制の維持の方法の検討については注力していく必要があると感じる。また日本語教育の需要は増加の一途をたどり、適切に運営するための教育活動の点検とその結果についての具体的な見直しを確実に実行することが何よりも重要性を帯びている。

本校のような大都市圏ではない地方都市に立地する日本語教育機関において重要なのは、東京や大阪といった大都市では得られない価値や魅力を学校カリキュラムに盛り込むことや学校内外における人間同士の信頼度を高めること以外に、入学希望者を集め、さらにこの学校で働く人がここにに応じてより充実な時間が過ごせるようにすること以外に学校経営を安定化していく方法はない。

昨年2025年度からは段階的に入学者の選考規準の見直しや、募集活動のための重点的な対象地域の検討を開始している。また、入学希望者にはどのようにすれば本校の教育課程について興味を持ち、また入学後はどのような教育内容であれば達成感が得られ、満足度が高まるのかといった観点から教育内容や生活支援体制を見直す作業を継続して行ってきた。教職員の個々の満足度の向上についても、本年度からは担当者を配置し、個々の段階に応じた研修体制の整備と、一方的で行き過ぎることのないよう適切な評価体制に見直しをはかるようにした。

学校理念や教育目標に基づいた学校でありつづけるための活動としては、前年度はとりわけ方向性としては健全に向かっているであろうことは、実際に行われた教育課程の内容やその教育目標の達成度の評価からは、及第点に達したと言える。しかしながら、多くの課題は依然として散見され、特に具体的な教育内容の共有や情報交換については発展途上段階にあり整備が急がれる。また運営についての重大な事項を決定する上での法人内での意思決定の方法や、体制そのものに対する多方向性が確保された「評価」方法については、その運用についてあいまいであったりするため、適正な運用のための体制づくりが急務となる。本校は歴史の上では35年にわたり事業を行っているがその歴史に見合っていない面があるのは疑いようがない。今後も現在の事業計画の履行状況の確認作業や点検結果をふまえ、静岡地域にふさわしい日本語教育機関の運営、教育内容の一層の改善と充実をめざしたい。

2025年度自己点検・自己評価実行委員

実行委員長・記載責任者： 野田敏郎（校長）

実行委員： 中村八重子（教務主任）、望月典子（事務長）、他5名

点検実施日：2026年4月1日～30日

情報公表日：2026年4月30日